

ひらいた門

見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。 黙示録 3 : 8

VOL.02-11 NO.020 2010年11月

チャーチ・オブ・ゴッド

川崎南部キリスト教会

〒210-0025 川崎区下並木66

TEL&FAX 044-233-3648

Eメール:nanbu-kyokai@nifty.com

URL:<http://kawasaki-nanbu-kyokai.com>

「求められる変身変顔」

橋本幸夫

「イスラエル人はモーセの顔を見た。まことにモーセの顔のはだは光を放った。」
(出エジプト 34 : 35)

伊藤肇著〈喜怒哀楽の人間学〉から多くのことを教えられます。

日本揮発油社長の鈴木義雄にインタビューのため、定刻かつきりにいったら、秘書の女の子が出てきて〈すみませんが二分だけお待ちください〉と言いました。

社長族の仕事が分刻みであることくらいは知っていましたが〈それにしても恐ろしく几帳面な会社だなあ〉と、やや皮肉な気持ちで時計を眺めていたら、本当に二分かつきりに鈴木があらわれました。

そこでインタビューのきっかけに〈私がお待ちしていた二分間に、社長はどんな仕事をされたのですか?〉と少々意地の悪い質問をぶつけてみました。

〈実はあなたがこられる前に、経営上の問題である部長と大激論を戦わせていたのです。当然、険しい顔をしてやっていたでしょうから、その表情を残したままで、あなたに会うには失礼だと思い、秘書に二

分だけ暇をくれ、と言ったのです〉。そして、その二分間に〈姿見の前に立って顔かたちを整えた〉と言います。

自分で自分の顔つきをちゃんと知っていることは、自分自身を知るのと同じくらいに難しいでしょう。さすがなものだと、ひどく心を打たれました。

〈人々は、聖書を読まずに私たちを読む。キリストを見ないで私たちを見る〉と言われるが、はたして、どのくらい真剣に自分の顔を見ているでしょうか。

聖日礼拝に出席するたびに、福音の輝きによって自らの顔が変えられているでしょうか。毎日、聖書という姿見で、自分をうつし、主の栄光の輝きで変身変顔を求められます。

ある兄は、帰宅したとき、笑顔で迎えてくれることを奥様に要求する唯一のことだと聞きました。しかし疲れているのは男性だけではありません。現代人のすべてがキリストの輝きの笑顔が必要としています。

「私たちはみな…栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」
(Ⅱコリント 3 : 18)